

生涯学習概論2024レポ3回答

【課題】

課題：女性差別あるいは男性差別の体験や経験（した方でも、された方でも）、見た経験を教えてください。
読者は教員とネット公開するので潜在的には日本語話者全員。期末レポートにつながればという狙いでの出題です。

提出方法：農大メールの本文として記述する。添付ファイルにしない。また、次の約束を守ること。

件名：生涯学習概論レポート3 [3は全角]

本文1行目：学科、学籍番号（半角）、氏名 区切りは全角ピリオド「.」か空白を推奨

2行目：タイトル。内容を簡潔に確実に現すように

3行目以降：本文は3行目から書く。文字数2000字まで。

提出期限：7月9日（火）。遅れても提出する。回答は共有するので不可の場合は明記する。

文章は一部整形しています。空白行は削除。段落最初の字下げはそのままです。できていない人、半角の人、半角で複数回打ちの人がいまだにいます。ワードなどのインデントで調整している場合、マイクロソフト社以外のアプリでは無効になるので注意してください。

女子と男子に分けて掲載。

【女子学生】

押し付けられる女の子らしい恰好と好きな色

幼少期から小学校低学年にかけて、私は母や祖母から「せっかく女の子に生まれたのだから、女の子らしい恰好をしなさい。」と強く言われた。女の子らしい恰好とは、スカートや、フリルの付いた服を着ることだ。当時の私は、外で走り回るような活発な性格だったため、動きにくいスカートやフリル付きの服を着よう強要されるのは苦痛だった。なぜ男子はズボンを穿いて動きやすそうなのに、私は女子というだけで窮屈な服装を着なければいけないのかと気になっていた。

さらに、持ち物の色を決めつけられるのにも腑に落ちなかった。母や祖母は女子はピンクや赤色、男子は青や緑色が好きだという認識をしており、私が青系の色を身に付けていると「もっとかわいいピンク色の物を身に付けてほしい。」と言われた。性別で好きな色も決めつけられてしまうのは、個性を認められていないようで悲しかった。

男女差別が日常になっていた学生生活

高校在学中は特に男女差別を感じるが多かった。毎月服装チェックがあり、そこで男女分かれて校則に違反していないか外見を判断される。男女一列になってそれぞれで先生に指摘されるという行為は男女差別の典型的な例だろう。

他にも中学で経験したことは、男子だけ怒られる際に先生に廊下に呼び出されるということがあった。中学校の学校生活ではそれが日常だったので疑問を抱くことは少なかったが、今思えばあり得ない教育だ。廊下に呼び出されて怒られるだけでなく、胸倉をつかまれている同級生もいた。なぜこんなにも男女間で差別が生まれるのだろう。そんな疑問も抱かないほど、男女差別が日常になっていた。

性別による配慮の難しさについて

明らかな女性差別を体験したことはないが、自分が女性であるために少し複雑な気持ちになったことがある。

それは、男性と二人で外出に行ったときだ。そこでは、二人とも同じ料理を注文した。料理が運ばれてきたときに、先に届いた方は女性向けで、後から届いた方が量が多く男性向けになっていると店員から案内された。

メニューには量に関する記述はなく、店側からのサービスだったのかもしれないが、一般的に男性の方が食べる量が多いからといって、男女で料理の量に差があるのはいかなものかと感じた。

今までに料理を食べ残す女性客が多かったのかもしれないし、店側の事情もあると思う。しかし、同じ値段でありながら男女によって違いが出るのは疑問に思った。注文の段階で店員が確認を取っていれば、こちらも疑問を持つことがなく、受け入れることができたかもしれない。

今回の経験から、男女の性別の違いによる配慮は、非常に繊細で、すべての人を納得させるのはハードルが高いと感じた。男女によって対応を変える必要がある際は、多面的な観点から考慮し、慎重になるべきだと考える。

漁師は男性の仕事なのか

私は網走市に来てから、男女差別を感じることはあった。特に漁業関係で感じるが多かったと思う。漁師などの、海に関係する仕事は力仕事が多く、男性の仕事であるという認識が根強く残っているように感じた。

例えば、多くの農大生が参加するほたてのバイトでの事だ。ほたてのバイトでは、男性の仕事と、女性の仕事に分けられている傾向にある。力仕事は男性が任せられ、力の要らない仕事を女性が任させるケースをよく見かける。そして、男性の方が女性よりも給料が高く設定されている番屋もある。そこには、女性は男性よりも力仕事に向いてないという男女を差別した考えが見受けられる。確かに男性は女性よりも筋肉質で力があることが多いが、女性の中でも体を鍛えていたり、スポーツをしていたりと、体力に自信がある人もいる。女性にも、給料の高い力仕事にチャレンジする権利はある。

更に、農大の海洋水産学科では生徒は男性の割合が高い傾向にある。農大だけではなく、海洋系の大学や学部にも所属する生徒は、男性が多い傾向がある。このことから、海に関係する仕事は、男性がするものだという認識が根強く残っていることが見受けられる。

女だからキャプテンになれなかった話

小学生の時、野球のスポーツ少年団に所属していました。高学年になりチームのキャプテンを決める際、私は立候補したのですが選考落ちし他の男子がキャプテンとなりました。納得がいかなかったので理由を聞いたところ、私が女子であるからキャプテンにできないという旨を伝えられました。当時の私はせめて個人の能力の問題だと伝えて欲しかったと悔しく思ったことを覚えています。

相手の立場にたって

女性差別の経験は数多く私の人生の中で経験してきました。その中で1つ挙げるとしたら、私が小学生の時の話です。

私は小学生の時、男子に混ざって女子1人で野球をしていました。練習試合などで男子と同じプレーをしても、相手チームの監督から私だけ褒められるということは多々ありました。また、「女の子なのに野球を

していて、すごいね」と言われることも多くありました。これは、女性差別ということができると思います。

私は、そのような態度を取られることをそれほど嫌と思ったことはありません。嫌と思うどころか、嬉しく思う時期もありました。しかし、「女子だから、褒められるのか」と悩んだこともあるのも事実です。

女性差別は、日本の中にいまだに存在すると思います。その差別の発言や態度を向けられた人がどのように感じるかは人それぞれですが、差別である可能性のある発言、人が悲しむ可能性のある発言はするべきではないと考えます。相手の立場に立った考えをできる人々が増えることを願います。

サンドイッチに例えて整列させられる

幼稚園生の時、整列する際に男女交互で整列しなければならない時があった。先生が園児を並ばせるときに、男の子はパン、女の子はハムと言われ、サンドイッチで並んでくださいと言われていた。

最初は何も疑問に思わず並んでいたが、近くにいた女の子が、「ハムは嫌だ。レタスがいい」と言って騒いでいるのを見て、自分もハムと呼ばれるのが嫌だと感じた。当時は、ハムは肉なので、豚と呼ばれているように感じ、嫌だと思っていたかもしれないが、今になって思うと、女が男に挟まれている、という印象を感じ、嫌だと思った。

どのような理由があり男女交互で並ばせているのかはわからないが、サンドイッチで例えて並ばせるのはやめてほしいと思った。子どもに対して、教えるためにはやりやすい方法であるかもしれないが、別のやり方で整列させてほしいと思う。

友人が行きたいわけでもない料理教室に通わされる

私は直接男女による差別を受けたという記憶はないが、小学生の頃に仲良くしていた友人が、女の子であることを理由に本人の意思と関係なく、料理教室に通わせれていた。料理教室に通うことを非常に嫌がっている様子ではなかったが、行きたいわけでもないのに通い続けることを面倒くさがっていた。料理ができる女性は確かに魅力的であるが、女性は料理が一通りできなければいけないという友人の両親の考え方は現代では男女差別と捉えられるのではないかと感じた。

高校で見た男性差別

高校3年生の時、文化祭の準備の際に他クラスの人たちが荷物を運ぼうとしていて、女子も運ぼうとしたら女子の一人が男子で運んでと言っていた。

また、他の女子が高い場所を飾り付けをしようとしたらそこは男子がやるからと言っていたのを見た。

男子たちは面倒臭がっていたが、結局は言われた通りに仕事をしていたので、女子たちは黒板に絵を描いたり、手の届くような低い場所を飾り付けをしたりなど比較的楽な仕事をしていた。

その女子の発言がおかしいと思って男子と荷物を運ぶ人は見なかった。

軽い荷物もあったのに力仕事は男子がやるべき、危ない場所は男子に任せるといったような、あからさまに男子に面倒くさい仕事を押し付けて、自分たちは楽をしようとしていたのがバレバレだった。

差別された経験

私が居酒屋でアルバイトをしていたとき、女性だからという理由で多くの差別にあった。例えば、お客さんからの容姿に対する揶揄や、不意に手など体の一部に触れられることである。それだけでなく、「いい男と結婚してたくさん子供を産め」「女は若くて綺麗なうちしか相手にされない」など酔っ払いから人生につ

いてお説教されることがとても多かった。私にとって思い出したくないほど嫌な記憶が蘇ってしまいそうなので、沢山紹介したかったがこれまでにしておく。

子どもに伝わる男女差別観

私が中学生の際に母親から「女の子なんだから汚い言葉遣いをしてはいけない。」と言われたことがあります。そのときは「じゃあ、男だったら汚い言葉遣いしても良いの？男女関係なく言葉遣いは気をつけた方が良いんじゃない。」と言いました。すると母親はそれはそうだと考え直していましたが、「女の子なんだから」と言うのは当時よく聞いた文言でした。特に今よりも自分の親や祖父母の世代といった男女によって仕事が明確に分けられることの多かった時代はこうした子どものしつけにも男女差が顕著に表れていたのではないかと思います。

性別による運転免許の偏見

自動車の免許を取る際に、マニュアル車を希望したが、「女の子はオートマで良い」と言われた。もし「マニュアル車が少なく、今乗れる車のほとんどがオートマチック車だから」という理由であれば理解できたが、性別を理由にオートマ免許を勧められるのは選択肢を狭められたようで悲しかった。

【男子学生】

力仕事の分担

男性差別と呼ぶには小さいものかもしれないが、バイトの時に男だからという理由で力仕事を何回もさせられたことがある。自分はサボっていたのではなく、同じバイトをしている後輩の女子の仕事を手伝っていた。急に店長に呼ばれて言われたのは、「お前は男なんだから力仕事とかやることが他にあるやろ」と言われた。男だからという理由で力仕事を押し付けられるのは違うのではないかと思った。バイト先には確かに重くて持ち上げることが難しいものもあるが、それらを運ぶために台車などが多く用意されているので女子でも簡単に運ぶことができるようになっている。なので、男だから力仕事を仕事をやらなければならないという店長の発言は自分の中ではおかしいことだなと感じた。

今までに経験した性差別

私が男だからなのですが、今までに経験した差別は男性差別です。この課題がでたときに、小学生の頃、「男なんだから」と言われやりたくないことや嫌なことをやらされていたことを思い出しました。重いものを持たされたり、汚い所の掃除などを押し付けられていました。今思うと確かに女の子にやらせるのは可哀想とは思いますが、男女平等の世界を目指すならそういったことも無くしていかなければいけないと思います。

高校生の頃、女子更衣室はあったが男子更衣室がなかったこと。

私が高校生だった頃に体育の時間や部活動の時に、制服から体操服などに着替える。その際に女子は専用の更衣室があったが、男子には更衣室が無く、教室で着替えなければいけなかった。男子が着替えている途中に教師や女子が物を取に、教室に入ることがあり、それを嫌がる男子もいた。当時は特に気にしなかったが、今思えば男子差別だったのではないかと思う。

奢るのは男性の義務

私には高校時代、お付き合いをしている方がいました。デートへ行ったことを友人に話すとさも当然かのように彼女の食事代を出したのだろつと言われました。出していないというとその友人に馬鹿にされたような態度をとられました。しかし、私は彼女と同学年であり、高校ではアルバイトが禁止されているためお金に余裕があるとは言えません。そんな中でも男性側がお金を出すべきであるか否か、現在でも答えがわからない。

男性が女性よりも先にへたばること

剣道は比較的ジェンダーフリーなスポーツであるが、実際にそれをやる人見る人がジェンダーフリーな見方をしているとは限らない。私が中学2年の頃、地域の剣道クラブでよく稽古をしていた。私は体力があまりないため、激しい稽古後に人よりも息を荒げていた。そこで母親に「あんたは男なんだから、〇〇ちゃんよりも先にへたばるなんて良くないよ」と言われた。当時の私はあまり深くは考えずに流していたが、今思うとこれは男性差別ともとらえられる。確かに男性の方が基礎体力は高いが、基礎でない体力に関しては、本人の努力次第であるため、男性女性はあまり関係しないのではないかと考える。

専用車両について

私が日本に住んでいて感じる差別は女性専用車両である。私が物事ついた頃にはもうすでにあった女性専用車両であるが、男性専用車両がないのは何故だろうか。元々は痴漢被害から守るために作られた女性専用車両であるが、近年では賠償金、示談金目当てで嘘の告発をするタチの悪い犯罪が増えていると聞く、私も高校時代電車通学をしていたが冤罪をかけられたわけではないが近くにいる女性に体が接触しただけで舌打ちをされてとても嫌な気分になった。私は冤罪をかけられなかっただけマシではあると思うが、冤罪をかけられた男性は人生を台無しにされてしまう。そして冤罪をかけた女性は大したお咎めもなく勘違いでした、で終わりにになってしまう。冤罪から逃れたいために男性専用車両を望む男性も少なからずいるのではないだろうか。何故女性専用車両だけ存在するのだろうか、お互いの性別を尊重するためにも男性専用車両は作るべきではないだろうか。

学校での服装の男女差別～ローファーと制服～

高校の時に男子は、運動に適した靴（ランニングシューズやスニーカーなど）ならば、自由で指定されていなかったが、女子は靴の指定があり、ローファーと決められていた。男子も女子もローファーと決められているか、どちらも自由なら良いと思うが、片方に制限をかけるのは差別だと感じた。統一感や清楚さを求めるのなら全体のルールとしてローファーにすれば良いと思う。そして、靴にルールを求めないのなら、全員が自由な靴にすれば良いと思った。

多くの学校では、男子がズボンで女子がスカートと決められており、これも差別の一種なのではないかと考えた。最近ではジェンダーについて問題視されている中で、性別によって服装を決めつけるのではなく、選択できるようにするのが良いと思った。冬の寒い中でスカートを履かなければならない意味や、男子がスカートを履いてはいけない理由などはないと思う。

以上の理由から、性別によってルールを分ける必要はないと考えた。

バイトの募集条件

友人から聞いた話で、バイトの募集条件が女性限定であったために面接を受けることができなかったという話がある。友人は喫茶店でバイトをしたいという願望があり、自宅周辺の喫茶店に応募をして面接をうけ

ようとしていた。しかし、喫茶店で店長と話をした際、女性の従業員を募集したいという理由で面接を行う前に断られてしまった。接客を行った際の印象などの様々な理由があるのだと思うが、性別が理由で断るのはどうなのかと感じた。

性別による差別

私はこれまで生きてきてあまり差別というものを感じないで生きてきたと思う。男女の仲もとてもよく差別とは無縁と言ってもいいほどです。けれど強いてあげるとするならば高校の文化祭の時、男子生徒は荷物を運ぶなどの重労働、女子生徒は小道具などを作る軽い仕事をしていました。当時は何も感じなかったけれど、今思うとこれは差別なのかなって少しだけ思う。男性でも小道具作りなどの器用なことが得意な人もいるし、女性でも重労働をすることが嫌ではない人もいるだろうし、適材適所なのではないかと思う。

クラス支援員による差別

私が経験した性別による差別は小学生の時に支援員として教室にいた人によるものだ。私のいた小学校では、担任や副担任とは別に支援員と呼ばれる人が教室に入り担任の手伝いなどをしていた。私と同じクラスの男子には先生への反抗などで目立つ子が数人いて、反対に女子は静かな子が多かった。そのためこの支援員は何かがあると全て男子が悪いという先入観から入ることが多かった。私はこの人と関わることを避けていたが、男子であるということだけで悪く扱われていることもあったため嫌な思いをした。

SNSを利用したジェンダー思想の押し付け

X（旧twitter）を見ているとたまに女性の社会的地位の向上に励んでいる人を見かけるのですが、そういう人に限って女性のイメージを損なうような発言、行動をしているように感じます。思想を語るのは自由ですが、男はこうあるべきなど、それを押し付けるのはジェンダー差別をしているのと同じだと感じました。また、そういう人に限って声が大きく、多くの人の目につくので、トラブルが多く発生しそうだと考えました。

私が小学生の頃に体験した差別

私が小学3年生のころの担任の先生が、典型的な女の子鼻屑をする先生だった？課題を提出できなかった生徒が女子生徒だった場合は軽い注意で終わるが、男子生徒だった場合は、暴言を吐かれた。また、ひどい時には手を出されている男子生徒もいた。幸い私は、あまり被害を受けなかったが、小学3年生という幼い時期であったこともあり、被害を受けている生徒の姿が私の記憶に鮮明に残っている。このことから、男女差別は、被害を受けた本人だけでなくその場にいた人も傷つけてしまうことをそのときに知った。

しかし、今回はたまたま女子が鼻屑されていた状況であったが、男女の立場が逆だった場合でも、同じ状況もしくは、さらに深刻な状況になってしまうことも考えられるので、その点についても男女差別の理解を深めることが出来た。

男のくせにという言葉

重い荷物やモノを持つ際や部活動でキツイ練習などがあり、持つことができないときや練習でばてってしまったときに、「男なんだからそれくらいできるでしょ」という言葉や「男のくせに」「男なんだから」などという言葉をかけられる経験やそのようなことを言われている人を見たことがある。そのような言葉は男性差別なのではないかと疑問に思ったことがある。